

5. 文末表現

5-1. …べきだ / …なければならない

5-2. V-てほしい / V-たい

5-3. V-るつもりだ

5-4. …かもしれない / …だろう

5-5. …にちがいない / …はずだ

5-6. …わけだ

5-7. …のだ

+練習問題

+練習問題

各文末表現の意味・用法の一覧 1

文末表現	意味・用法	例文
・・・べきだ	一般的な事柄に対して、意見・忠告・禁止などを述べる	<ul style="list-style-type: none"> ・学生はアルバイトよりも勉強をするべきだ。 * 自分自身に対しては使用できない
・・・なければならぬ	義務や必要性があることを述べる	<ul style="list-style-type: none"> ・今月までに論文を書かなければならぬ。
V-てほしい	第3者や事柄に対する希望・願望を述べる	<ul style="list-style-type: none"> ・両親には、元気で長生きしてほしい。 * 自分以外の対象に対する希望・願望を表す
V-たい	自分の希望・願望を述べる	<ul style="list-style-type: none"> ・将来は海外で暮らしたい。 * 自分の希望・願望を表す
V-るつもりだ	自分の意志や意図を述べる	<ul style="list-style-type: none"> ・国へ帰ったら、日本語の教師になるつもりだ。

各文末表現の意味・用法の一覧 2

文末表現	意味・用法	例文
・・・かもしれない	可能性があることを述べる	・今度の期末試験は不合格かもしれない。
・・・だろう (推量)	想像や思考から判断を述べる	・彼ならきっと合格できるだろう。 * 根拠のない主観的な判断を述べる
・・・にちがいない	確信的な判断を述べる	・今夜は星がよく見えるから、明日は快晴にちがいない。 * 根拠に基づく判断が多いが、根拠のない場合もある。
・・・はずだ	根拠のある判断を述べる	・彼は昨日帰国したから、しばらく大学には来ないはずだ。
・・・わけだ	論理的に導かれる説明や結論、書き手の理解を述べる	・彼女はカナダ人だがケベック州の出身らしい。だからフランス語が上手なわけだ。 * 事柄を論理的に述べる

5-1. …べきだ / …なければならない

1. …べきだ

「…するのが当然だ」「…するのが正しい」という意味。一般的なことからについて、意見や忠告、禁止を述べる場合に使われる。書き手自身の行動については、用いることができない。

誤用例

わたしは修士2年生なので、そろそろ修論を書き始めるべきだ。

修正例

…そろそろ修論を書き始めなければならない。

書き手自身の行動を述べる場合は、「V-なければならない」を用いる。

1. …べきだ

正用例

- (1) 最近の小学生は、勉強や習い事に忙しすぎる。
子どもにはもっと自由な遊びをさせるべきだ。
- (2) 引き受けた仕事は責任を持ってやり遂げるべきだ。
それがプロというものだ。
- (3) 挑戦するか否か、迷っているときはチャレンジするべきだ。
人生は一度きりなのだから。

2. …なければならない

「一般常識やことからの性質から見て、そのような義務や必要性がある」という意味を表す。誰から見ても「そうするのが当たり前だ」という一般的な判断を述べる場合に用いられる。

正用例

- (1) 車を運転する時は、免許証を携帯していなければならない。
- (2) この授業の単位を取るためには、明日の試験を受けなければならない。

5-2. V-てほしい / V-たい

1. V-てほしい

第3者や事柄に対して、「・・・してもらいたい」「ある状態でいてもらいたい」という希望や要求を表す。自分自身の希望・願望には用いることができない。

誤用例

私は日本語を読むことと聞くことには慣れてきたが、話すことと書くことはまだまだだ。今後は日本で、自分が学んだ日本語をできるだけ活かしてほしい。

修正例

・・・学んだ日本語をできるだけ活かしたい。

書き手自身の言動に対しては、「V-たい」を用いる。

1. V-てほしい

正用例

- (1) 今度の研究会は、大勢の人に来てほしい。
- (2) 子どもには、失敗をおそれずに何事にも挑戦してほしいと思う。
- (3) 戦争の記憶を忘れてほしくない / 忘れないでほしい。

否定の表現には、「V-てほしくない」と「V-ないでほしい」の二つの形がある。

2. V-たい

正用例

自分自身の行為について、希望や要求を表す。

- (1) 今年こそN1の試験に合格した**たい**。
- (2) 将来は海外で仕事を**したい**と思っている。
- (3) 山田さんは、スキー場のアルバイトを**したがっている**。

誤用例

(× 山田さんは、スキー場のアルバイトを**したい**。)

- (4) 田中さんは、今年こそN1の試験に合格**したいと言っている**。

誤用例

(× 田中さんは、今年こそN1の試験に合格**したい**。)

例文(3)(4)のように第三者の願望を述べる場合は、「・・・たがる」を用いたり、「・・・と言っている」のように引用表現を使う。

5-3. V-るつもりだ

1. V-るつもりだ

自分自身の意志や意図を表す。その行為が可能かどうか不確定な場合、用いることができない。

誤用例

私にとって作文は最も難しいが、たくさん書くにつれてよくなる**つもり**である。

修正例

修正例：私にとって作文は最も難しいが、たくさん書くにつれてよくなる**だろう**。

実際に作文がよくなるかどうかは不確定なので、ここでは推量の「だろう」を用いるのが適切である。

1. V-るつもりだ

誤用例

日本語の本を読んで、日本語の作文のルールを勉強して、正しい文法を使うつもりです。

修正例

日本語の本を読んで、日本語の作文のルールを勉強して、正しい文法が使えるようになりたい。

実際に正しい文法が使えるようになるかどうかは不確定なので、「つもり」を用いるのは不適切である。ここでは願望の「たい」を用いたほうがよい。

1. V-るつもりだ

誤用例

日本語学習では、具体的な目的を持って努力して、目標を達成する**つもりだ**。

修正例

- (1) 目的を持って努力して、目標を達成し**たい**。
- (2) 目的を持って努力すれば、目標を達成できる**と思う**。
- (3) 目的を持って努力すれば、目標を達成できる**だろう**。

目標が達成できるかどうかは未確定なため、「つもり」は不可。願望を表す「Vたい」、意見を表す「と思う」、推量の「だろう」などで表現できる。ただし、「と思う」「だろう」は、可能動詞に変化させる必要がある。

1. V-るつもりだ

正用例

- (1) 今年の夏休みは、国へ帰る**つもりだ**。
- (2) 大学を卒業しても、研究を続ける**つもりだ**。
- (3) 今日は一日出か**けないつもりだ** / 出かける**つもりはない**。

否定表現には、「…**ないつもりだ**」と「…**つもりはない**」という二つの形がある。

5-4. …かもしれない / …だろう

1. …かもしれない

「その可能性がある」という、書き手の推量を表す。その可能性の度合いは、「だろう」よりも低い。意見を述べるとき、断定をさけて、表現をやわらげるために用いられることもある。

正用例

- (1) 仕事と研究の両立は大変**かもしれない**が、挑戦する価値はある。
- (2) 利益目的の教育機関が増加する中で、質の低下が心配されるのは**当然かもしれない**。

1. …かもしれない

誤用例

他の大学生たちと比べて、(自分が)もう若くないことを思うと、悲しい**かもしれない**。しかし、太陽のような若者と一緒に過ごせば、年を取っても、元気に生きていけるだろう。

修正例

- (1) …若くないことを思うと、**少し悲しい**。
- (2) …若くないことを思うと、**悲しい気がする**。

自分自身の感情を表すのに、「かもしれない」を用いることはできない。「悲しい」度合いが低いことを述べるときは、「少し」、「気がする」等の言葉を付け加えるとよい。

2. …だろう(推量)

書き手の判断を表す。「かもしれない」よりも、そのことが真実だと考える度合いが高く、十分な根拠がないことや主観的な事柄でも用いることができる。また、断定をさける表現としても用いられる。

誤用例

書く学習をすることで、自分の読む能力も鍛えられるにちがいない**だろう**。

修正例

(不確かな判断) …読む能力も**鍛えられるだろう**。

(確信的な判断) …読む能力も**鍛えられるにちがいない**。

確信を表す「…にちがいない」と推量の「だろう」を同時に使うことはできない。

2. …だろう(推量)

誤用例

私にとって、「書く」という授業は最も必要だ。最近では先生や友人と日本語で話すよりも、インターネットでメールやチャットをする**だろう**。

修正例

(1) 意見を述べるとき

…メールやチャットをする**ことが多い(と思う)**。

(2) 理由(なぜ「書く」授業が必要か)を述べるとき

…よくメールやチャットをする**からだ**。

ここがポイント



書き手自身の行動を表す場合には、「だろう」は使えない。

2. …だろう(推量)

誤用例

私にとって、大学院に進学することは大きな挑戦である。進学の目的を改めて考えたことはないが、この目標はずっと前から心の中にあった**だろう**。

修正例

…この目標はずっと前から心の中に**あった**。

書き手自身の状態や言動については、「だろう」は使えない。ただし、5-5-2の(1)のように、〈可能動詞+だろう〉であれば、使うことができる。

2. …だろう(推量)

正用例

- (1) この調子なら次の試合には勝てる**だろう**。
- (2) 彼はもう家を出た**だろう**。
- (3) こんな機会は二度とない**だろう**。

否定の場合は、「…ない**だろう**」となる。

5-5. …にちがいない / …はずだ

1. N/A/V にちがいない

書き手が確信している事柄を表す。根拠があるときによく用いられるが、根拠のない書き手の直観的な確信を述べる場合でも使用することができる。

正用例

- (1) 子どもは、下に下りるよりも上に上がりたいという性質がある。
だから、きっとこの山道を登って行ったにちがいない。(根拠あり)
- (2) アラビア語は、最も習得の難しい言語の一つにちがいない。(根拠なし)

2. …はずだ(判断)

誤用例

現在私は大学の4年生で、将来は日本語と英語の教師になるはずだ。

修正例

- (1) …日本語と英語の教師になるつもりだ。
- (2) …日本語と英語の教師になる予定だ。

書き手自身の行動について述べる場合に、「はずだ」を用いることはできない。

2. …はずだ(判断)

誤用例

日本語の学習を始めて、わたしはすぐに感じた。日本語は習得が難しい言語の**はずだ**。

修正例

- (1) …習得が難しい言語**にちがいない**。
- (2) …習得が難しい言語の**ようだ**。

論理的な根拠のない直感や主観的な判断を述べる場合には、「はずだ」は使えない。

2. …はずだ(判断)

正用例

- (1) 彼は3時にここを出発したので、もう目的地に着いているはずだ。
- (2) もっと勉強していれば、今回の試験は楽に合格できたはずだ。
- (3) 鈴木さんは今週から休暇を取ると言っていたから、明日の会議には来ないはずだ / 来るはずがない。

否定の表現には「…ないはずだ」と「…はずがない」(3)があるが、前者より後者のほうが否定の意味が強い。

5-6. わけだ

1. わけだ

説明や解説をする文末に用いられる。その結論は、前の文脈から論理的に導き出されるものでなければならない。

誤用例

- (1) 作文学習の目的の一つは、思考能力をきたえることである。自分の考えをそのまま伝えるのではなく、分かりやすくまとめたほうが望ましいわけだ。

修正例

・・・分かりやすくまとめたほうが望ましいと考える/と思う。

誤用例(1)は、前の文章からの論理的な結論(帰結)ではなく、書き手の意見を述べる文になっており、「わけだ」の表現が適切ではない。

1. わけだ

誤用例

(2) 作文で重要なのは、読み手に理解される文章を書くことである。正しい書き方を知らなければ、読者を混乱させてしまうことになる**わけだ**。

修正例

- (1) ……ことになる**からだ**。(理由を述べる)
- (2) ……ことになる**だろう**。(推量を述べる)

誤用例(2)も、前の文から論理的に導かれた結論を述べているわけではない。書き手の主観的な意見を述べる場合は、「～と考える/と思う」のほかに、修正例のような表現を用いることもできる。

1. わけだ

正用例

- (1) 気づくと、雪が降っていた。どうりで寒いわけだ。
- (2) 彼女は12歳までイギリスで生活していた。だから、英語がうまいわけだ。
- (3) テレワークとは、情報通信機器を利用して時間や場所の制約を受けずに働ける形態のことである。つまり、自宅に居ながら仕事ができるというわけだ。

(1)、(2)は前の文から必然的に導き出される結論、状況・実情などに対する書き手の理解・納得を表している。

(3)のように、前の文を別の表現で言いかえる場合にも用いられる。

次の文章の文末表現で適切なほうを選びなさい。

- ① わたしは明日試験があるので、アルバイトが終わったらテスト勉強を（するはずだ・しなければならない）。
- ② 意見の相違があるときは、納得がいくまで議論する（わけだ・べきだ）。
- ③ 彼は1年間だけの交換留学生だから、来年は帰国する（はずだ・べきだ）。
- ④ わたしは来年大学を卒業したら、海外で（働いてほしい・働きたい）。
- ⑤ 自分の子どもには、将来好きな仕事を見つけて一生懸命（働いてほしい・働くだらう）。



- ⑥ 社員を大事にしないあの会社で、わたしは二度と働かない（はずだ・つもりだ）。
- ⑦ 一年後、わたしの日本語はもっと上達している（だろう・わけだ）。
- ⑧ わたしは来年フランス語の勉強を始める（つもりだ・だろう）。
- ⑨ 林さんは12歳までイギリスに住んでいたらしい。どうりで英語の発音がいい（わけだ・かもしれない）。
- ⑩ 田中さんは授業をサボる人じゃない。きっと何かあった（わけだ・にちがいない）。

- ⑪ 4月も休校が続く（かもしれない・つもりだ）から、そのときはまた仕事を休まねばならない。
- ⑫ 都合により、来年は休学する（べき・つもり）なので、冬休みに入る前に学生課に連絡した。
- ⑬ 木村さんはもう熱が下がったと言っていたから、数日中に出勤できるようになる（わけだ・はずだ）。
- ⑭ 来年こそ日本語能力試験の1級に合格（するつもりだ・したい）。
- ⑮ 私が来年4月から勤める会社はフランスの会社なので、フランス語の勉強も（するべきだ・したほうがよい）。

練習問題 1 【解答】

- ① わたしは明日試験があるので、アルバイトが終わったらテスト勉強をしなければならぬ。
- ② 意見の相違があるときは、納得がいくまで議論するべきだ。
- ③ 彼は1年間だけの交換留学生だから、来年は帰国するはずだ。
- ④ わたしは来年大学を卒業したら、海外で働きたい。
- ⑤ 自分の子どもには、将来好きな仕事を見つけて一生懸命働いてほしい。

- ⑥ 社員を大事にしないあの会社で、わたしは二度と働かないつもりだ。
- ⑦ 一年後、わたしの日本語はもっと上達しているだろう。
- ⑧ わたしは来年フランス語の勉強を始めるつもりだ。
- ⑨ 林さんは12歳までイギリスに住んでいたらしい。どうりで英語の発音がいいわけだ。
- ⑩ 田中さんは授業をサボる人じゃない。きっと何かあったにちがいない。

- ⑪ 4月も休校が続く **かもしれない** から、そのときはまた仕事を休まねばならない。
- ⑫ 都合により、来年は休学する **つもり** なので、冬休みに入る前に学生課に連絡した。
- ⑬ 木村さんはもう熱が下がったと言っていたから、数日中に出勤できるようになる **はずだ**。
- ⑭ 来年こそ日本語能力試験の1級に合格 **したい**。
- ⑮ 私が来年4月から勤める会社はフランスの会社なので、フランス語の勉強も **したほうがよい**。

練習問題 1 【解説】

- ① しなければならない：自分の言動を述べる文で、「はずだ」は不可。
- ② べきだ：一般的な事柄についての意見を述べている。
- ③ はずだ：根拠に基づく意見を述べている。
- ④ 働きたい：自分（わたし）の願望を述べている。
- ⑤ 働いてほしい：第三者に対する願望を述べている。
- ⑥ つもりだ：自分の意志を述べている。
- ⑦ だろう：推量の「だろう」
- ⑧ つもりだ：自分の予定を述べている。
- ⑨ わけだ：実情に対する書き手の理解・納得を述べている。
- ⑩ にちがいない：自分の確信的な意見を述べている。

練習問題 1 【解説】

- ⑪ かもしれない：休校が続くかどうかは半々の確率と述べている。
- ⑫ つもり：自分の予定（意志）を述べている。
- ⑬ はずだ：根拠に基づく判断を述べている。
- ⑭ したい：合格できるかどうかは未確定なので「つもり」は不可。
- ⑮ したほうがよい：自分自身の言動を述べるのに「べきだ」は不可。

5-7. のだ

1. のだ

「のだ」の基本的な機能は、「関連付け」である。

「のだ」の文は、前後の文や(言外の)状況と関連があることを表す。

例: スーツケースを持った近所の人に出会ったとき

夫婦



女の人



スーツケースを持って
いるから、旅行に行くの
かな？

女の人： あれ、旅行に行くんですか？

夫婦： ええ、ハネムーンなんです。

1. のだ

★★★

①

状況：スーツケース
を持っている

この状況に関連付けて、話す
「旅行に行くんですか」

②

前の文：
「旅行に行くんですか」

前の文に関連付けて、話す
「ハネムーンなんです」

①の「のだ」の文は、〈スーツケースを持っている〉という状況に関連付けて質問していることを表している。この状況を見た話し手は、「旅行に行くのかな？」という自分の予想（解釈）が正しいかどうかをたずねている。

②の「のだ」の文は、「旅行に行くんですか」という質問に関連付けて答えていることを表している。この場合、「ハネムーンなんです」という返事は、「旅行に行く」ことについての説明をしている。

このように、「のだ」の基本的な機能は、〈関連付け〉である。「のだ」の文は、前後の文や（言外の）状況に関連付けて述べることにより、〈説明〉〈解釈〉〈言い換え〉等のさまざまな意味を生じさせる。

1. のだ

★★★

正用例

- (1) 前の文に関連付けて述べることで、〈解釈〉の意味が生じる
近くでピーポーというサイレンが聞こえる。近所の人が救急車を呼んだのだ。
- (2) 前の文に関連付けて述べることで、〈説明〉の意味が生じる
東京の大学の入学試験で不正が行われていた。女性よりも男性に医師になってほしいという大学の考えから、男性をより多く合格させていたのである。
- (3) 前の文に関連付けて述べることで、〈言い換え〉の意味が生じる
彼は来年4月で大学5年生になる。つまり、留年したのである。

ここがポイント



上の例のように「のだ」は、前後の文や状況と「のだ」の文を関連付ける。そこから〈解釈〉〈説明〉〈言い換え〉等の意味が生じる。

1. のだ

誤用例

- (1) 大学院に入学して、レポートや論文を書く機会が増えた。それによって「書く」力が身に付いてきたが、母語の作文の書き方で作文を書いていたのだ。その結果、自分のレポートや研究論文は言いたいことを十分に日本人の相手に伝えられなかった。

修正例

・・・母語の作文の書き方で作文を書いていた。

(1)では、「・・・書いていたのだ」の文が、どの文と関連しているのか不明である。そのため書き手の言動を強く述べる〈強調〉の意味に解釈され、読み手に違和感を与える。したがって、ここでは「のだ」のない文にするのが適切である。

1. のだ

誤用例

(2) 作文学習は学生に不可欠である。文系の学生は毎日のように作文を書いているのだ。自分は研究のためにいろいろな本を読み、それを整理して、作文を書いているのだ。そうした作業が、論文を書く時の材料になると私は信じているのだ。

修正例

作文学習は学生に不可欠である。文系の学生は毎日のように作文を書いている。自分は研究のためにいろいろな本を読み、それを整理して、作文を書いている。そうした作業が、論文を書く時の材料になると私は信じているからだ。

(2)の誤用例も、3つの「のだ」の文がどの文と関連しているのかが不明である。そのため、書き手の言動を〈強調〉する意味に解釈され、違和感がある。さらに、連続して用いられているため読み手にくどい印象を与える。

1. のだ

正用例

- (1) 作文の学習をしないで、ただ日本語を聞いたり、日本人と話したりするだけでは、日本語の学習は不十分である。話し言葉と書き言葉は違うものなのである。

「のである」の文が前の文に関連することで、「日本語学習が不十分である」のは、「話し言葉と書き言葉が違うものだから」という、〈説明〉を表している。

1. のだ

正用例

(2) 作文を学習する理由は、三つある。第一に、話し言葉より書き言葉のほうがより正式で、説得力があるからである。第二に、今日の社会では、必要な情報を手に入れて、レポート等で報告する能力が欠かせないからである。第三に、作文を書く過程で、論理的な思考力を身に付けられると考えるからである。つまり、作文は生きる上で不可欠なので、良い作文を書くために作文学習が大切なのである。

ここがポイント



文章末の「のである」が、作文学習の3つの理由をまとめ、〈言い換え〉をしている。この例のように、意見を述べる文章の最後に「のだ」の文が用いられると、書き手の意見をまとめ、強く主張する役割を果たす。

次の「のだ」の文が表す意味を〈解釈・説明・言い換え〉の中から
選びなさい。

- ① 道路が渋滞している。きつとこの先で事故があったのだ。
- ② スポーツでメンタル（心）の果たす役割は、フィジカル（身体）よりも大きいと言われている。つまり、メンタルを強くすれば、勝負に強くなれるのである。
- ③ 彼は何も言わず立っていた。あまりのショックに言葉が出なかったのである。
- ④ 来年から75歳以上の医療費が上がるらしい。高齢者に配慮する財源がないのだ。
- ⑤ 彼女はわたしに腹を立てているのだ。今朝から全く口をきかないし、目を合わせようとすらしらない。

練習問題 2 【解答・解説】

- ① 解釈：道路が渋滞しているのは、事故が原因だと解釈している。
- ② 言い換え / 説明：メンタルの役割について言い換え(説明)をしている。
- ③ 説明：「なぜ何も言わず立っていたか」を説明している。
- ④ 説明：医療費が上がる理由を説明している。
- ⑤ 解釈：「のだ」の文が先行している例。後文にある事柄を「彼女が腹を立てているため」と解釈している。

練習問題 3



次の文章から不適切な「のだ」の文を選び、文章に合うように適切な表現を使って書き換えなさい。

- ① 大学に進学する目的は人によって違うと思うが、わたしは自分の夢をかなえるために進学したのだ。宗教を通して日本人の精神世界を理解するために、専門分野のコースに入ったのだ。これはわたしの夢だからこそ、頑張らなければいけないのだ。
- ② 正直に言うと、論文の正しい書き方が全然わからない。文章の構成、各段落の関係、適切な接続などについて、これまで勉強したことがなかったのだ。つまり、書くことについて体系的に学んだことがないのだ。したがって、自分の考えをきちんと伝えられるようになるために、作文の授業を選んだのだ。

練習問題 3 【解答例・解説】

① 大学に進学する目的は人によって違うと思うが、わたしは自分の夢をかなえるために進学したのだ。宗教を通して日本人の精神世界を理解するために、専門分野のコースに入ったのだ。これはわたしの夢だからこそ、頑張らなければいけないのだ（と思っている）。

「のだ」の文と関連付けられる文が文脈中に見当たらないため、すべての文末で「のだ」が不要である。

練習問題 3 【解答例・解説】

② 正直に言うと、論文の正しい書き方が全然わからない。文章の構成、各段落の関係、適切な接続などについて、これまで勉強したことがなかった¹からだのだ。つまり、書くことについて体系的に学んだことがない²のだ。したがって、自分の考えをきちんと伝えられるようになるために、作文の授業を選んだ³のだ/のである。

- ・ ¹ 「文章の勉強をしてこなかったために論文の書き方が分からない」という意味を表すなら「からだ」を用いるべき。
- ・ ² 「学んだことがないのだ」は、その前の文を言い換えていると解釈できるので、適切だといえる。
- ・ ³ 前の二つの文をまとめていると解釈できるので適切。
「選んだのだ」よりも「選んだのである」のほうが客観的な表現になる。

それぞれの質問について、表現文型の例を参考にして三文程度で意見を述べなさい。

- ① あなたは中学生に制服が必要だと思いますか。

わたしは _____ と思う。
なぜなら、 _____。
_____。

<表現文型の例>

- ・ 中学生に制服は必要だ。
必要だと考える。
必要だと言える。
必要だと思う。
必要だろう。

② 地球環境を守るために人類は何をしたらよいと思いますか。

★★

地球環境を守るために_____。

_____。

_____。

<表現文型例>

・地球環境を守るためにプラスチックの使用をやめるべきだ。

やめなければならない。

やめたほうがよい。

* 文末を少し変えたいとき（主張はやや弱くなる）

・プラスチックの使用をやめるべきだと考える。

やめるべきだと思う。

やめるべきだろう。

練習問題 4 【解答例】

① あなたは中学生に制服が必要だと思いますか。

わたしは中学生に制服は必要ないと思う。なぜなら、制服は個性を無視し、気温の変化にも対応しにくいからだ。また、自分の考えで適切な服装を選ぶことは、自主性を育てることにつながると思う。

② 地球環境を守るために人類は何をしたらよいと思いますか。

地球環境を守るためには、もはや一人ひとりの意識だけでは足りないのかもしれない。食べ放題やファストファッションなどの大量生産、大量消費を考え直す必要があるだろう。企業や国がリーダーシップを取り、現代の生活のあり方そのものを見直さなければならないと思う。

用語の説明

- 主観的** (4,17,23,26) 自分ひとりの感じ方や考え方に基づくこと。
- 客観的** (47) 誰もがそうだと納得できる立場から物事をみること。
- 論理的** (4,23,25,26) 分かっている事柄から物事を正しく判断したり、新たな考えを導くこと。
- 必然的** (27) 必ずそうなる様子。
- 直観的** (21,23) 考察をしないで、感覚によって物事の状況を感じ取ること。
- 根拠** (4,17,21,23) ある考えや言動のもとになるもの。
- 推量** (11,13,15,17) 物事の事情、他人の心情などを推測して考えること。
- 機能** (36,37) ある物事の特徴として備わっている働き。
- 実情** (27) 実際の状況や事情。
- 関連付け** (36,37) ある物事と他の物事との間につながりを持たせること。

◆クリエイティブ・コモンズ・ライセンス による公開について

この教材は「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス」(<https://creativecommons.jp/>)に従って以下のように公開しています。

表示—非営利—継承



「原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示し、かつ非営利目的に限り、また改変を行った際には元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開することを主な条件に、改変したり再配布したりすることができるCCライセンス。」

著作権

筆者の木戸光子・加藤あさぎ・小池康・平形裕紀子・石川早苗・君村千尋が保持します。

使用許諾

個人の学習や授業での利用の場合は、自由にお使いください。使用する時は出典の明記をお願いします。また、改変や再配布するときも、出典を明示してください。

出典:「留学生のための日本語作文ガイドブック」木戸光子・加藤あさぎ・小池康・平形裕紀子・石川早苗・君村千尋、2022年
<https://nihongosakubun.jimdofree.com/>

営利目的では使用しないでください。その他、使用について質問があれば【連絡先】にお問い合わせください。